



「めんこい」(かわいい)子たちに  
ありつたけの愛情を注ぐスタッフ  
地域で障害を持つ子を支援するための  
ヒントが、ここにあると感じた

「にのこ」にきていたももこさん(右)としのさん(左)を囲むスタッフ。小さな指にはピンクのネイル(円内)。この日はチョコバナナ餃子をクッキング。チョコバナナの甘い香りが部屋中に漂っていた。



伊藤準也  
が行く  
Vol.51

伊藤準也  
が行く  
51

にこっと秋田

# うちに遊びにおいで!

伊藤準也は今回、特定非営利活動法人「にこっと秋田」が運営する「多機能型重症児者デイサービス」にのこ」を訪ね。秋田初、昨年10月にオープンしたばかりというできたてはやはやの家。で、代表理事の八代美千子さんに活動内容や心意気、課題などについて話を伺いました。

## 21人の重い障害を持つ子どもを見守る多機能型デイサービス

伊藤 秋田は晴れの日が少ないと聞いていましたが、今日はいい天気ですね。  
八代 本日に珍しいかも(笑)。改めまして、今日は「にのこ」にお越しいただき、ありがとうございます。  
伊藤 楽しみにしてきました。ここは秋田初の多機能型重症児者デイサービスと聞いています。具体的にどんなことをやっているのでしょうか。  
八代 正式には「放課後等デイサービスと生活介護の多機能型事業所」といい、重い障害を持ったお子さんを、家族からの依頼があったときに預かっています。今は、13歳から39歳までの、21人が来ています。

伊藤 重症度はどれくらいですか？

八代 対象となっているのは、18歳までの重症心身障害児と、18歳以上の障害支援区分でいうところの「6」に該当する方です。ただ、自治体で基準が少し異なるみたいで、「にのこ」に来ていたのは、歩けたり、口で食べられたりできる子から、人工呼吸器の子まで、さまざまです。  
伊藤 近くには、秋田県立医療療育センターがありますよね。  
八代 車で10分くらいのところですよ。ここは何かあったときに医師がすぐに飛んで来られるような環境ではないので、障害がもう少し重い子はセンターに通っています。どちらがいいとかではなく、選べるのが大事なのかなって思います。

伊藤 確かにそうですね。スタッフは何人ですか？  
とれた施設基準を取れば、ある程度の取入は確保できますが、それでも継続的に経営していくのはたいへんだと思います。八代 何も知らなかったから、気持ちだけで突進しちゃいました(笑)。経営のこととかを勉強していたら、「二の足を踏んでたかもしれない」。

伊藤 この建物はどうされたのですか。見た感じでは、「普通のおうち」を改装して使っているようですね。  
八代 そうです。物件を探していたとき、たまたまこの家を知りたいたという夫婦がいらっしゃって、病院っぽくしたくなかったの、ちよとよいと思って購入しました。退職金をすべて使っちゃいました(笑)。  
伊藤 でも、それだけでは足りなかったでしょう？

八代 フルタイム4人、パートタイム8人の計12人で、看護師、介護福祉士、保育士がいます。みんな40代半ばは50代前半で、同じ志がある人たちなので一緒に働いて楽しいのですが、入学式とか遠足とか、家族の行事が重なることが多くて、その調整はちょっとたいへんです。伊藤 こういう場なら、子育てや介護で一時的に休職していた潜在看護師さんも働きやすそうなお気になります。  
八代 そうですね。実際、うちにも潜在看護師がきてくれてます。

## 退職してたった半年で立ち上げ「病院のほくしな」こだわり

伊藤 ここを立ち上げる前、八代さんはささきと話に上がった療育センターで看護師をされていたわけですか。なぜそこを辞めて、「にこっと秋田」を立ち上げようと思ったのでしょうか。  
八代 センターで働いていたとき、異動で重症心身障害児の生活介護を受け持つことになったんです。そのとき、「もう少しお母さんに関われたら、楽になるのにな」って感じる現場がいくつもあって、何度か変えようと試みたんですが、組織の中では難しいですね。

伊藤 なるほど、辞めてからどれくらいでここを立ち上げたんですか？  
八代 半年です。  
伊藤 それは早い！ 福生の場合、きちんと

### PROFILE



特定非営利活動法人「にこっと秋田」代表理事  
**八代美千子**さん  
平成7年、秋田県看護師として採用。県立リハビリテーション・精神医療センター、県立太平洋療育園、県立医療療育センター-病棟勤務を経て、平成24年から同センター内の生活介護事業所「よつ葉」にて18歳以上の障害者のデイケアに6年携わる。平成30年独立NPO法人にこっと秋田を設立。



# 医療や福祉は起業流行りだが、

## この国の未来を考えたなら 志のある八代さんのような挑戦は 必要だ。看護師よ、立ち上がれ！

八代 はい。地元の銀行に融資してもらいました。秋田初の施設という事で、いろいろと頑張ってもらいました。

伊藤 八代さんはいへんだったけれど、子どもたちにとっても、ここは病院とは違って家に近い、いい環境だと感じます。

八代 ありがとうございます！実は「八代家に遊びに行く」という感じにしたいので、そこはこだわりました。この子たちは「病院は怖いことをされる場」と記憶しているので、病院っぽい場では常に緊張しっぱなしなんです。だからベッドもウッド系で、白衣も着せません。少なくともここでは家みたいになりやすくしてほしいんです。

かわいから「めんこさん」と呼ぶお母さんたちも安心して暮らせる場

伊藤 始めてみてどうですか？

八代 まず、「めんこさん」たちの表情が変わりました。これまでミキサー食だった子が筋子のおにぎりを食べられるようになるなど、できないと思っていたことができるようになる子もいて、時間をかけて関わることがこんなに大事な事だ、改めて思いました。

伊藤 めんこさん？

八代 ここに来る子をそう呼ばせてもらっています。かわいいという東北の方言「めんこい」からきています。本音にみんなかわいくて！

伊藤 八代さんやスタッフの皆さんのめんこさんたちへの接し方を見てると、こつちもにっこりします。「お母さんを楽に」という部分はありますか？

八代 表情が明るくなりました。自分の時間ができたことで仕事を始めたお母さんいますし、きょうだいに時間をかけられるようになったと喜んでいらっしやるお母さんもいます。

伊藤 それはよかった。ケアが必要なお子さんのきょうだいは、たいていいろんなことをがまんしちゃうから。

八代 最近きょうだいを連れてくるお母さんもいて、「お姉ちゃんみたいな人がいっぱい」と、はじめはきょうだいでいるんだけれど、そのうちお手伝いしてくるようになったり。

伊藤 それはいいですね。そういうことは前の現場では叶わなかった？

八代 残念ですが。療育センターではお母さんたちに何度も「何かあったら言ってみてね」とお伝えしていたのですが、「病院に」子どもを人質に取られているようなものだから、何も言えない」とって

返されたこともあり……。

伊藤 お母さんの、そういう不安は分かるような気がする。実際、ショートステイも、レスパイトも、不安で頼めないというお母さんもいるようです。

八代 お母さんたちが頑張ることで、お母さんに何かあったら困るから話しても、なかなか……。でも、「にの」で家庭訪問を始めてから、カルテに書かれていないことも話してくれるようになって、ときに泣きながら話して、少しずつ距離が縮まっていった気がします。ときどき夜に「救急車まで呼ばなくていいかもしれないけれど、この状況でどう思う？」って電話が来ることもあります。

伊藤 距離が縮まるのはいいことですが、夜間の連絡の対応を八代さんが一人で背負うのはたいへんでしょう。業務としてできる範囲でいいですね。

八代 そうですね。

伊藤 ここを利用されているお母さんのご家族は、どんなきっかけでこちらを知って、依頼されるのですか？

八代 一番は口コミです。あとは私たちがやっているフェイスブックとかですね。もちろん許可はいただいています。フェイスブックではお母さん方がいつでもわが子を見られるよう、その日にやったことの報告や写真をたくさんアップしています。

エプロンをつけてクッキング 指にはネイル。さながら女子会

伊藤 それにしても、今日のクッキングは斬新でした。

八代 いいですね！ スタッフがアイデアを出してくれて、今日の「チョコバナナ餃子」を考案してくれたのも、スタッフです。

伊藤 今日来ていたももさん、しのがさんが三角巾をかぶって、エプロンして作ったお菓子は僕もこ相棒にあずかりました。おもしろかったです。

八代 重度の障害がある子がクッキングするなんて思ってもみません。でも、口から食べられない子でも匂いはわかるし、スプーンでチョコをちよつとだけ口先に付けたら、その味を楽しむこともできます。何より、自分たちが頑張った料理をお母さんや家族に食べてもらえるのって、うれしいじゃないですか。

伊藤 その気持ちすごくわかります。そうそう、ももさんの指先を見たら、ピンクのネイルをしていました。

八代 わかりましたか！ ここを利用されるめんこさんは、圧倒的に女の子が多くて、さながら女子会です（笑）。それでこの前、ネイルもやってもらったんです。

伊藤 それから先ほどから気になっていたのが、しの人に向かって、スタッフ

の皆さんが「アポ、アポ」って声をかけていたこと。あれは？

八代 それは不思議なんですけれど、しの方は「アポ」って言うって笑うんです。だから、自然とみんな肩や胸をポンポンってしながら、「アポ、アポ」って言うようになりまして。

伊藤 スタッフが本当に楽しそうに仕事をしているなって思います。

八代 ありがたいです。ケアも率先して作ってくれますし、私はみんながニコニコ笑ってられる環境を作っていくのが仕事だと思っています。スタッフがため息付いただけで、極端な話、体調が悪くなる子もいますから。

伊藤 スタッフにも話を聞こうかな。

伊藤 八代さんは介護福祉士で、療育センターからこちらに移ってこられたんですね。働く環境はどうですか？

伊藤 ぜんぜん違います。以前はできることが限られていて、理不尽だなんて思うことも多々ありました。変えようとなんばあったときもありましたが、変え

られなかった。ここは自分で考えたことがケアに活かせる。その分、スキルアップは必要ですし、責任もありますが、やりがいがあります。

伊藤 鎌田さんから見ると八代さんってどんな人ですか？

伊藤 熱い人です。秋田にはあまりいないタイプですね（笑）

伊藤 話は変わりますが、秋田ではケアを必要とする子は何人くらい？

八代 調べてもらったところ、重症心身障害児は98人でした。18歳以上については調べられないそうです。

伊藤 障害児のケアといえば、今後は地域集約型の施設が減って、代わりに地域のなかに包括的に入っていくようになる。それについてどう思いますか？

八代 理解はまだまだです。こ近所さんには、「にの」を始めるときに説明をさせていたとき、子どもたちの様子を見てもらっているの、散歩中も普通に接してくれますが、そうでないこともあって……。

子どもに「そっちに行っちゃダメ」とって親御さんもいました。そういうのって、スタッフより子どもたちのほうが、はるかに敏感です。意識疎通ができる子は目で「知りたい」と訴えています。目を見つめてきたまま開けない子もいました。

伊藤 そこにいたご家族とかは、自分たちとは違う世界の人たちって思っているのかもしれないですね。

八代 子どもが「なんでこれに乗っているの？」って聞いてきたら、「この子たちは病気で、手がイタイイタイなの」って教えてあげれば良い。そうしたら撫でてくれる子もいるんです。

伊藤 子どもより親の問題ですね。

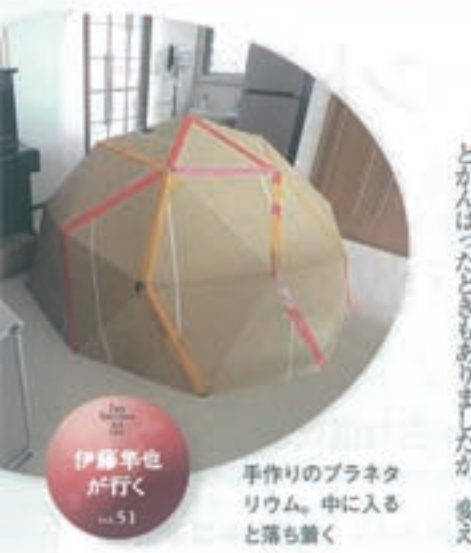
八代 そういう状況を変えたくて、6月から秋田市の職場体験を受け入れられます。小中高の子どもたちに来てもらう予定ですね。

伊藤 地域の理解が課題の一つだとすると、もう一つ、ケアの質の担保も課題だと思えますが、どうでしょう。

八代 「全国重症児ネットワーク」に所属しているのですが、質の担保については、毎回、議題に上ります。気管に穴が空いている子もいるので、ちよつとでも目を離すと命に関わる。安全で安心であるためにも、質をどう維持するか考えないといけないです。

八代 いずれは仕事の内容を看取りやショートステイまで広げていけたらいいなとは思っています。何より、秋田で初めての事業所なので、新しく事業を志す人たちのためにも成功しなきゃいけないですね。

伊藤 このところ医療や福祉の業界でも起業が流行っているようですが、現実はその甘くなくて、「人が人を支える」という本質的な部分をしっかり持っているとい、足下が簡単に崩れてしまう。だけどその一方で、その志を支えるのは同じ方向を見る仲間や地域であり、八代さんのチャレンジャーこそ大事なな人だと思えます。応援しています。頑張ってください。



伊藤準也が行く 51

手作りのプラネタリウム。中に入ると落ち着く

PROFILE

**伊藤準也**  
(いとうしゅんや)

医療ジャーナリスト・写真家  
医療情報研究所代表

患者中心の医療を実現するための医療ジャーナリストとしてテレビや雑誌などのメディアで活動中  
ホームページ shunya-ito.tv

スタッフ全員と。